

イチゴ生産を支える高温化対策技術の開発

○実施期間：令和7～9年度

○担当部署：野菜部

○区分：プロジェクト研究（異常高温を乗り越える農業創出プロジェクト）

○研究内容

近年の高温化により、イチゴ栽培では経営が不安定になる症状が生じています。育苗期の高温では頂花房の分化が遅延するほか、10～11月の高温では小果傾向が顕著となり、2～3月の高温では急激な草勢の強まりで食味が低下するなど、対策が急務となっています。

一方、イチゴは他の果菜類に比べて育苗にかかる作業時間が多く、育苗期の高温は、苗の生育不良を招くほか、作業者の健康を損なわせるため、育苗の省力化が求められています。

そこで、株冷処理により頂花房分化を制御する技術を開発するとともに、本圃ハウスにミストを設置して、環境制御によりイチゴの小果および食味を改善します。また、育苗の省力化が可能な小型固形培地を用いた早期定植技術を開発し、高温化に左右されないイチゴ生産を支援します。

<開発する技術>

株冷処理技術の開発



予冷库を活用した株冷処理

予冷库を活用し、苗を低温暗黒条件下に置くことで頂花房の分化を促進

生育や収量が低下しない最適な処理条件の特定

- ・温度
- ・日数
- ・苗の状態 etc

安定した頂花房分化による年内収量確保

収量・品質向上技術の開発



ミスト噴霧



環境制御

環境制御により気温、湿度、培地温、CO2濃度をコントロール

年内収穫果の肥大促進、2～3月の草勢の急増に伴う果実糖度低下を抑制する制御方法を開発

栽培環境の最適化による収量・品質向上

本圃育苗技術の開発



固形培地



岐阜県方式

固形培地を使って採苗し、慣行よりも早い時期に本圃へ定植。本圃で育苗を行う

「岐阜県方式」の培地温が上昇しにくい特徴を活かし、高温期でも苗の生育の健全化を図る

育苗作業の省力化、苗の健全化